



己に厳しく、他人に優しく

吉田 豊子
YOSHIDA Toyoko

京都産業大学 外国語学部 准教授
専門分野：歴史学

略歴

2005年、東京大学大学院博士号取得(文学)。中央大学で非常勤講師を経て、2008年より本学専任教員に。2014年、米国スタンフォード大学フーバー研究所訪問学者。

最近の主な論文・評釈

- 「ソ連と中国」
下斗米伸夫編『ロシアを知るための50章』、明石書店、2016年。
- 「民族主義と現実主義の間の権衡と扶沢」
張俊義・陳紅民主編『近代中外関係史研究』(第5輯)、社会科学文献出版社、2015年。
- 「第二次世界大戦末期の中蒙関係に関する史論」
石川禎浩編『現中国文化の深層構造』、京都大学人文科学研究所付属現代中国研究センター、2015年。
- 「1945年中蘇友好同盟条約締結過程で蒋介石と宋子文対外蒙古問題之因応」
吳景平主編『宋氏家族と近代中国社会的変遷』、東方出版中心、2015年。
- 「“内外交困”下蒋介石的对蘇外交」
吳景平主編『民族人物の再研究で再評価』、復旦大学出版社、2013年。
- 「民族識別工作」ほか
貴志俊彦・松重充浩・松村文紀編『20世紀満州歴史辞典』、吉川弘文館、2012年。



BEST SHOT

正面はグリーン・ライブラリー、
後はフーバー・タワー
(米スタンフォード大学)

研究テーマ

近現代中国政治外交史、アジア冷戦史、東アジア国際関係史に関して研究しています。学位論文はすべて中国の民族政策でした。多民族国家中国は近現代において、どのように国家統合をしたのか、どのような問題を抱えているのが問題関心です。外交史と国際関係史については、特に地政学に着目して、中国と旧ソ連との関係、中国とロシアとの関係を中心に研究を進めています。

研究の道へ進んだきっかけ

夢の実現は、たくさんの良き師、良き友との出会いとお導きのおかげだと思います。

研究者になってよかったと思うこと

教育で人間力の育成、研究で社会貢献ができること。教育と研究に携わる歴史研究者の社会的責任は大きいですが、非常にやりがいを感じています。

座右の銘

己に厳しく、他人に優しく

研究とプライベートの両立で工夫していること

学生時代にある教授が語った、昼間に団地を歩いていたら、周囲に働いていないおじさんだという変な目で見られた、という話を思い出します。研究者は机に座れば研究ができるわけ

ではありませんので、研究とプライベートを両立させることには難しさもあると思いますが、「余暇」を作って、気分転換をしています。

未来の研究者へ一言

歴史学は特に忍耐力・孤独さを求められる学問だと思います。苦楽とも味わいながら、長い道程を、強い意志で邁進してほしいです。

My Hobby

プロからアマチュアまで、ジャンルを問わないコンサート鑑賞です。頭がスポンジのように吸収力がアップするかも、と思っていて。

